



感謝の集い(日頃の感謝を込めて)



11月21日(木)日頃お世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えるため、代表委員が中心になって感謝の集いを開催しました。当日は、読み聞かせでお世話になっているたんぼぼの会の代表の方、朝の登校見守りをさせていただいている交通指導員の代表の方、プール清掃でご協力いただいている消防団の代表の方にご出席いただき、子どもたちから感謝の気持ちと花束を贈らせていただきました。

子どもたちは、「感謝の集い」を通して、地域の多くの方に見守られ、支えられていることを再認識し、改めて感謝の気持ちをもってくれたように思います。とても暖かな「集い」になりました。

人権週間(自分もみんなも大切に)



西小では11月下旬から「人権」について、子どもたちの発達段階に応じて、道徳や学級活動、講演会等、さまざまな学習機会を設けています。

私たちは人権を「誰もが平等にもっている幸せに生きるための権利」と捉え、子どもたちに「自分を大切にする」ことと同じくらいに「(家族や

友達等)自分以外の人も大切にする」という気持ちを育みたいと考えています。

この時期、ご家庭や地域においても、「人権」を難しいこと、堅苦しいものと考えず、私たちが心がけたいことを伝え合ったり、考えたりする機会になれば幸いです。

<人権習慣の由来>

第二次世界大戦が終了した後、国際連合は、1948年12月10日に世界人権宣言が採択されたのを記念し、12月10日を「人権デー(Human Rights Day)」と定め、加盟国などに人権思想の啓発のための行事を実施するように呼びかけました。

日本でも法務省の人権擁護機関で、12月10日の人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定め、1949年から毎年、各関係機関や各種団体及び学校等とも協力して、全国的に人権啓発活動を行っています。

もしもに備え 火災避難訓練実施



11月19日(火)子どもたちへは予告なしで、火災避難訓練を実施しました。当日は、桐生消防署の方にもご協力いただき、避難の心構えや身を守る方法の指導や消火器を使った初期消火の訓練を行いました。

これから冬が本格的に始まります。空気は乾燥し、風も強くなる季節でもあり、出火や火災の延焼が心配される季節になります。火を出さないことが一番ですが、もしもに備え「自分たちでも状況を判断し、適切に命を守る行動ができる」ように学校でも指導してまいります。ご家庭(地域)でも、もしもに備えた行動について話題にしていただけると幸いです。



西小の取組紹介⑥

がんばる西小の子どもたちと先生方を紹介します！

5年生の総合学習「環境」に群大・桐高が連携支援

11月11日(月)5年生の総合的な学習の時間(環境学習)の支援に群馬大学理工学府の先生と桐生高校の先生及び2年生8名が本校に来校し「環境にやさしい社会をつくろうー電気自動車 MAYU の紹介ー」と題してMAYUの乗車体験や「地球温暖化やそれを防ぐための桐生市の取り組み」についてプレゼンしてくれました。

MAYUの乗車体験では、はじめて乗車する子どもたちが多く「静か」「楽しい」「意外と速い」「カッコいい」の感想を聞くことができました。

乗車体験後は、会場を多目的室に移して、高校生による「地球温暖化」に関するプレゼンテーション&クイズで楽しく学習した後、学習のまとめとしてグループ・ワークで「環境のために私たちにできること」を考えました。



【中庭でMAYUに乗車しました】



【高校生によるプレゼン】

<子どもたちからの主な質問>

MAYUの名前の由来は？

A：桐生といえば繭だから

MAYUは何輪駆動？ A：8輪駆動

MAYUに乗るのって何で無料なの？

A：桐生市が負担

<高校生からのクイズ>

温暖化の原因は？ A：温室効果ガス

MAYUの動力源は？ A：電気

時速19km/hで走る動物は？

A：子犬、らくだ



【グループ・ワーク「私たちにできること」】

西小の先生が教育実践論文「西小の体力向上の実践」で奨励賞を受賞！

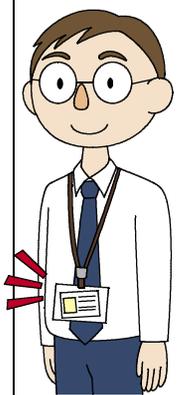


【賞状と目録を授与】

今までの西小の体力向上の取組みを先生がまとめてくれた教育実践論文が日本教育公務員弘済会群馬支部参事から表彰を受けました。受賞理由として、西小は単なる体力向上にとどまらない(子どもたちが主体的に活動する「ぴよんぴよん・ランラン・すいすい」等の活動を通して)誰もが本来持っている身体を動かす楽しさや心地よさを実感し、将来の健康増進に寄与する全校での取り組みが高く評価され、表彰に至ったようです。

今回の受賞を励みに、これからも先生たちは、西小の子どもたちを一生懸命に応援・サポートします！

校長室から



『私と小鳥と鈴と』 金子みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面(じべた)を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがって、みんないい。

人権週間の時期になるとこの詩を思い出します。

「みんなちがって、みんないい」とても素敵な言葉です。「あなたは、あなたでいい」と詩っている。人間を含め全ての生き物は、違うから生まれることができ、違うからそれぞれが存在することができた。誰もが生まれてきてくれただけで素晴らしい。

は、そんなみすゞさんのまなざしになるには、自分中心では成り得ません。

この作品で一番大切なのは、最後の段落の一行前。タイトルでは『私と小鳥と鈴と』ですが一行前は「鈴と、小鳥と、それから私」と「私」の位置が変わっています。「私とあなた」ではなく「あなたと私」になった時、自分優先ではなく「まなざしが生まれるのですね。」という